



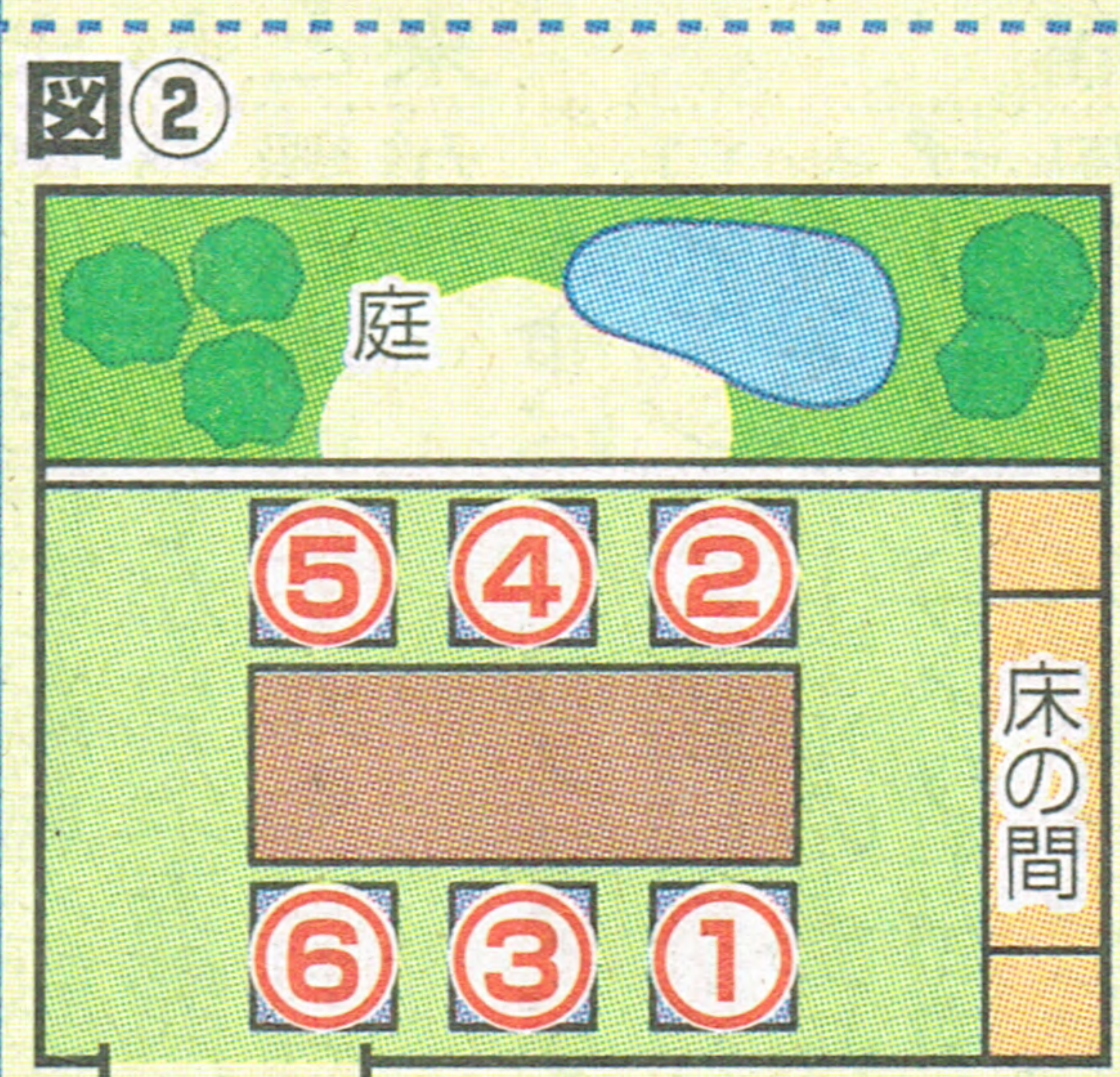
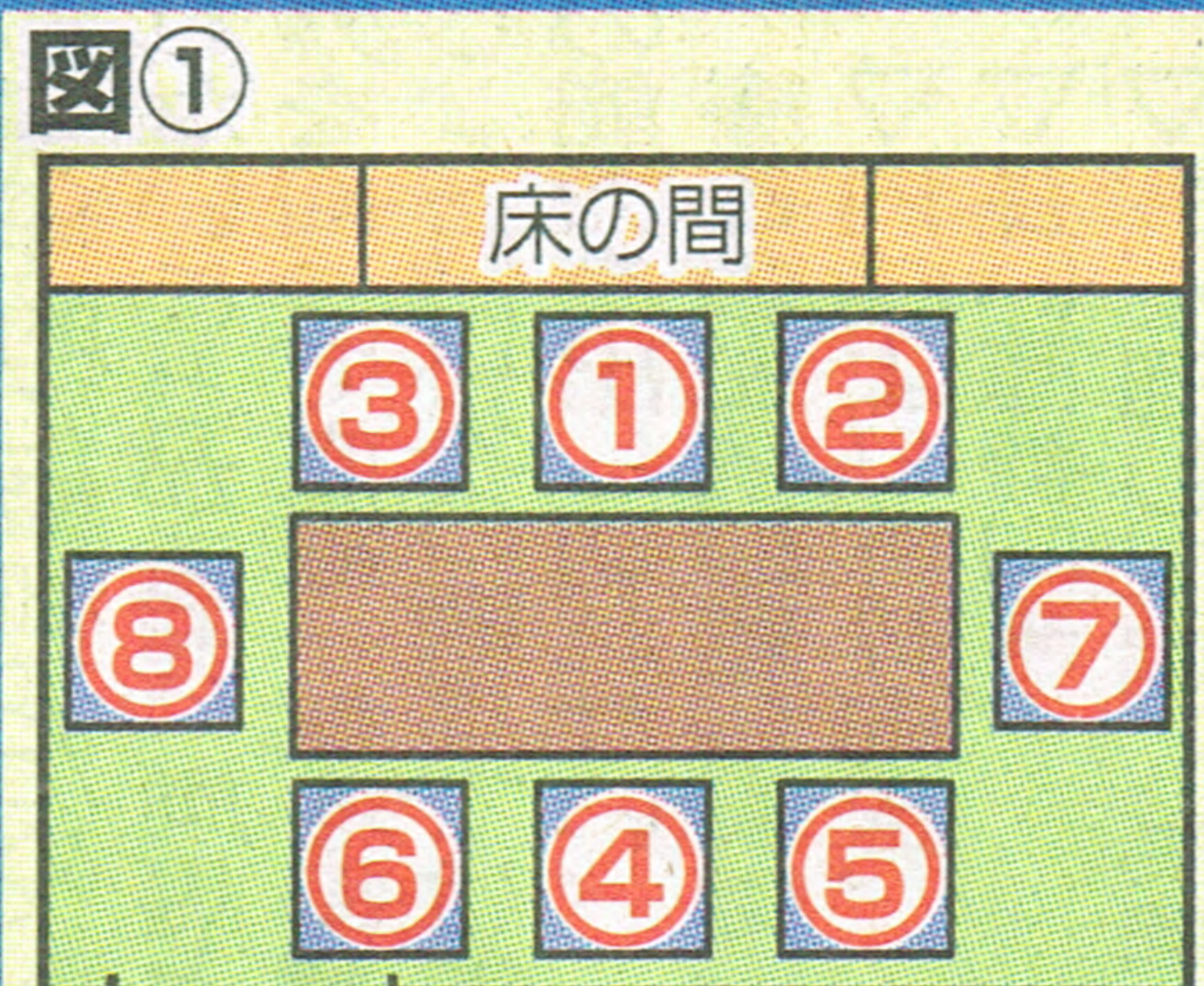
西洋とは逆

前回は洋室にお客様をご案内したときの「席次」についてお話ししました。「右側が左側より上座」という西洋の「右上位」の考え方がその基本にありました。

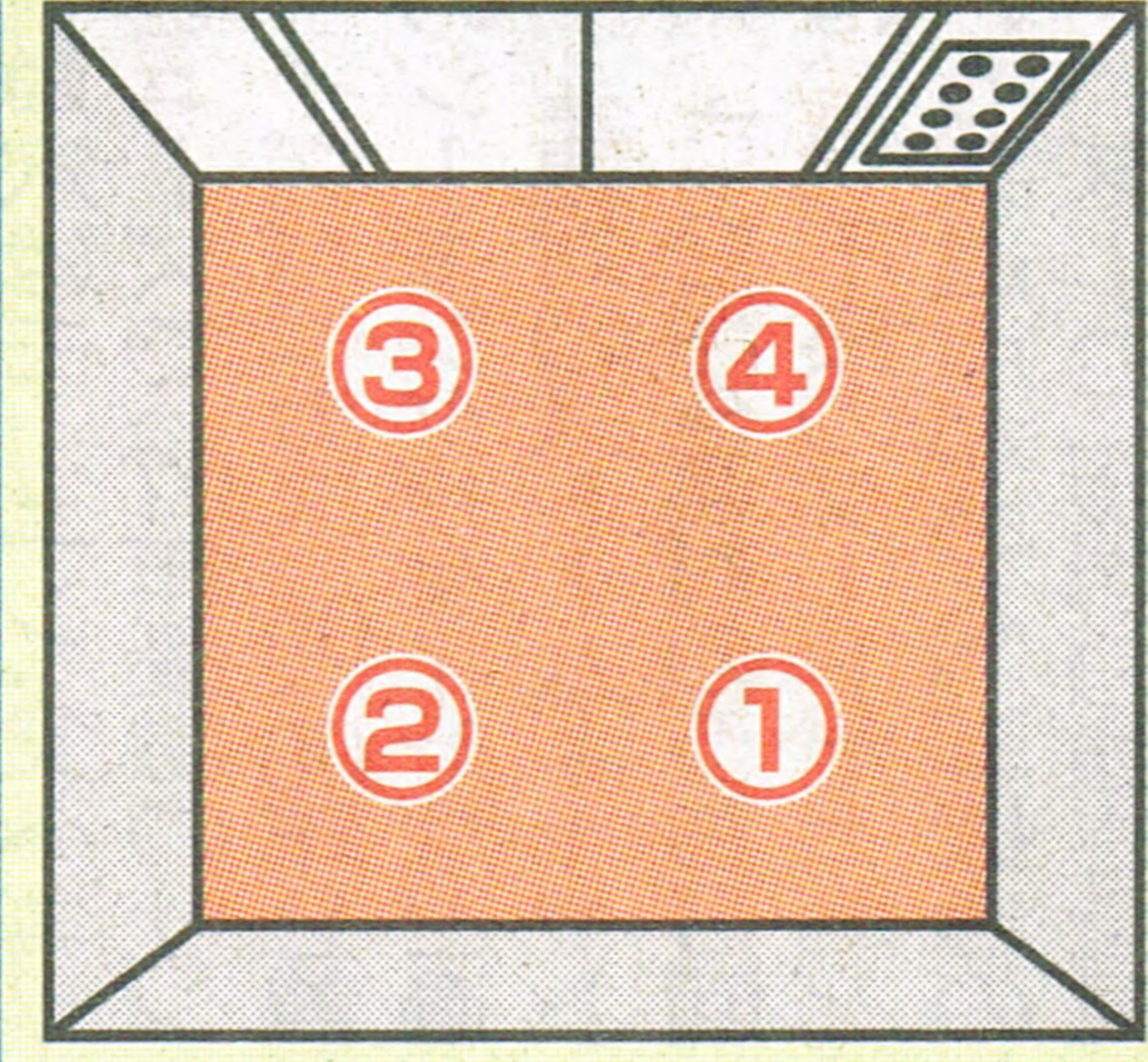
では和室の場合はどうでしょうか。日本古来の席次は西洋とは逆に「左上位」が原則です。

中国の儒教では「天帝は北辰に座して南面す」という思想がありました。不動の北極星を背にして南に向かつて座ることにより、皇

◆和室における上座◆



◆エレベーターでの席次◆



和室「左上位」が原則の理由

帝から見て太陽が昇る「東」は「左」、沈む「西」は「右」になるということ。「左」が尊重されてきたわけですから。その結果、中国文化を倣ってしきたりや文化を整備した日本でも、左が右より上位とされる「左上位」の考え方が根付きました。

まず和室では床の間の前が上座になり、上座の左側が2番、右が3番となります(図①)。床の間の前に席が並んでいる場合は左側(床の間に向かって右側)が上位になります(図②)。和室においても入り口に最も近い席が下座になります。ただし、美しい景色や日本庭園を眺望できるような

◆江上いずみ 慶大法学部卒。JALの客室乗務員として30年間で約1万9000時間乗務。13年にグロバルマナースプリングス設立。15年から筑波大客員教授。大学や官公庁、企業などで「グロバルマナー」とおもてなしの心などの講演を手がける。

文明開化で西洋化が進むと、日本でもプロトコール(国際儀礼)である右上位を取り入れるようになりました。大正天皇が公式の席で右側に位置され、昭和天皇の即位から正式に右上位の立ち位置になりました。

その後に倣ってひな人形の並べ方も変わっていきまして。全国に普及している「関東雛」は右側(向かって左側)にお内裏様を置く右上

位で飾っていますが、京都を中心とした「京雛」は左側(向かって右側)にお内裏様を置く左上位で飾っています。

最後にお客様をお部屋にご案内するために利用するエレベーターにも席次があります。下位者は操作盤の前でドアの開閉をします。その後ろが上座で席次はそこから時計回りになります。

人が集うところにはすべて上座と下座があります。プロトコールの原則である席次を状況に応じて即座に判断できれば、国際人としてのあなたの好感度もアップするに違いありません。(筑波大客員教授)